



正帰還を採用した個性的なサウンド

EL84

シングルパワーアンプ 長島 勝

カラー実体配線図 6ページ

製作記事 49ページ

**Electron Tubes
for
Guitar Amps
Amplifiers**

特集

ギターアンプ用 EL84/6V6/EL34を使った 真空管アンプの製作

PK帰還により特性が大幅に改善された
6V6GTシングルパワーアンプ 岩村保雄

カラー実体配線図 8ページ

製作記事 58ページ



作りやすいシンプル回路で
最大出力4.5W

EL34/6CA7

シングルパワーアンプ 征矢 進

カラー実体配線図 10ページ

製作記事 68ページ

ギターアンプ用真空管を
オーディオアンプへ

12ページ

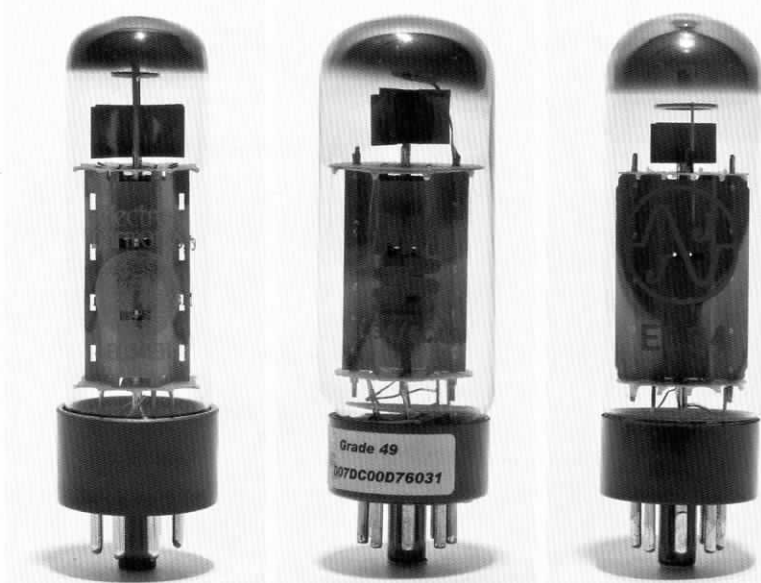
ギターアンプ用真空管をオーディオアンプへ

Electron Tubes
for
Guitar Amplifiers

商品協力：テクソル
〒435-0016 浜松市東区和田町514
TEL053-468-1201
<http://www.tec-sol.com>



米国フェンダーのチャンプなど、小型アンプに多く使用された6V6GT



1959シリーズをはじめ、英国マーシャルのアンプに多く用いられているEL34。同じEL34 (6CA7) でも、内部の電極の形状は大きく異なる。左からエレクトロ・ハーモニックス、PMコンポーネンツ、JJエレクトロニクス



ヴォックスAC15、AC30など、ブリティッシュサウンドを支えてきたEL84のバリエーションである、JJエレクトロニクスのEL844。出力を低くして歪みやすくした新製品

電圧増幅用双3極管はMT管の12AX7を筆頭に、12AT7、12AU7などがある。ブランドによって異なるが、ローノイズ品、ローマイクロフォニック品、ロングプレート品、両ユニットの特性の揃った選別品など、さまざまなバリエーションがある

今も真空管というデバイスが大きな支持を得ているのが楽器用アンプ、特にギターアンプの分野だ。フェンダーやマーシャルといった音楽制作の第一線で活躍している海外製ギターアンプのほとんどすべてが真空管アンプと言っても過言ではない。ナチュラルなディストーションサウンドは、やはり真空管アンプでなければ得られない。

オーディオアンプとの最大の違いは、「歪ませて使う」ことだろう。オーディオ用途では考えられない過酷な条件で使用しているのだから、オーディオアンプより消耗が激しく、ひんぱんに真空管の交換が必要になる。そのため、現在も大量な真空管が生産され続けているのだ。

ギターアンプ向けの真空管製造の先鞭をつけたエレクトロ・ハーモニックスをはじめとする各メーカ

ーのほか、各国で生産されたものを選別して自社ブランドとして販売している商社（例えばPMコンポーネンツやグループチューブなど）がある。したがって、商社ブランドの場合、異なるブランドでも中身は同じということも少なくない。

ギターアンプ向けと銘打っているが、基本的にはオーディオ用真空管との違いはない。ギターアンプの回路バリエーションは多くなく、さらに直熱3極出力管は使用されないのだから管種は限られてしまうが、安定して入手できるギターアンプ向けブランドを積極的にオーディオ用途に使ってみよう。

さらに、今回の特集でも使用されたJJエレクトロニクスのEL844のように、新しい製品も開発されている。こういった新製品を研究して取り入れることも、自作オーディオの楽しみの一つとなるだろう。